

会員急増 I I O T 相互接続検証ビジネス拡大推進

【那覇】スマートフォン（スマホ）やタブレット端末を中心とする情報通信機器の相互接続検証（I O T）基盤の構築を目指す I I O T（沖縄県うるま市）の会員が急拡大している。沖縄県の支援を受け一般社団法人として昨年7月に設立、現在の会員数は当初の6社から22社へ増加した。齋（もたい）昭男理事長

「那覇」スマートフォン（スマホ）やタブレット端末を中心とする情報通信機器の相互接続検証（I O T）基盤の構築を目指す I I O T（沖縄県うるま市）の会員が急拡大している。沖縄県の支援を受け一般社団法人として昨年7月に設立、現在の会員数は当初の6社から22社へ増加した。齋（もたい）昭男理事長

国際認証機関のニーズに柔軟

システム
基盤構築

「会員企業と一体になり、沖縄県での検証ビジネスの拡大を推進することも、グローバルに相互接続検証に関する課題が激増す

HEMSにも対応

構築を進め、短期間・低コスト・高品質な相互接続検証を望む多くの企業がこの基盤を活用する。

検査機材として、スマホやタブレットなどのスマートデバイスや全機種配備する。Android端末やiOS端末が中心だが、今後の市場動向を見ながら、Firefo x OS、T I 家電、ナビなどの車載機器

を配備し、I O T ができる環境を提

検証ツールとしては、テスト設計効率化ツール、自動化ツール、リモートツ

検証ツールとして、テスト設計効率化ツール、自動化ツール、リモートツ



沖縄 I T 津梁パーク内に9月に完成した「情報通信機器検証拠点施設」に「I I O T ラボ」を拡充した

た沖縄 I T 津梁パーク内に「情報通信機器検証拠点施設」のうち650平方メートルを借用。検証対象情報通信機器を配置し、検証プロジェクトを推進中だ。このほか、優れた外来電波遮断機能を有する電波暗室を設置し、無線規格関連検証案件のさらなる受注を目指す。

テストリソースとして、県内外の幅広い会員企業同士の横連携でテストエンジニアやテストオペレータを相互活用し、あらゆる検証プロジェクトに柔軟に対応していく。

れているスマートデバイスの脆弱（ぜいじやく）性対策として、セキュリティ検証ツールの配備を進め、本格的なセキュリティ検証基盤の構築を目指す。

ナレッジDBには、モバイルデバイス・情報家電機器の詳細スペック情報や、再利用可能な相互接続検証のテストセット・セキュリティ

沖縄 I T パーク借用

ファシリテイ面では、沖縄県が9月に新たに建設し



齋 昭男 理事長